



第26回 藤木祭

生誕128年

日時 平成27年9月27日(日)午後1時から
場所 芦屋・高座の滝前(雨天決行)

主催 (公社)日本山岳会関西支部
兵庫県山岳連盟
大阪府山岳連盟
主管 藤木祭実行委員会
後援 芦屋市
近畿地区山岳連盟

第26回 藤木祭式次第

- | | | |
|------------------------|--------------|-------|
| 1 開会の言葉 | 日本山岳会関西支部 | 桑田 結 |
| 2 主催者挨拶 | 大阪府山岳連盟会長 | 中村 久住 |
| 3 来賓挨拶 | 芦屋市長 | 山中 健 |
| 4 お話し「地図を持って山へ出かけませんか」 | 白馬堂 ROKKO 店主 | 浅野 晴良 |

- | | |
|------------------------------|-----------------|
| 5 藤木九三短歌朗詠 | 藤木摩耶子 |
| 「頂に何こそなけれしかはあれど 命かまけて 岩よつ我は」 | |
| 6 ご遺族ご挨拶 | 藤木 高嶺 |
| 7 コーラス | アシヤユースコーラス |
| 8 合唱「雪山賛歌」 | 出席者全員 |
| 9 閉会の言葉 | 兵庫県山岳連盟会長 中西 研一 |

開催の趣旨

藤木九三氏は、RCC の設立、岩場の開拓を始め岩登り技術の基礎づくりをされ、多くの登山家を育てられました。またロックガーデンの名付け親とされ、山岳詩人として優れた詩や著書を残されています。勤務された朝日新聞社では、登山の指導教育、登山行事の主催や後援、海外登山隊への援助など、登山界の発展に寄与された、わが国を代表する登山家であり、指導者でした。

この大きな功績と人柄を慕い、レリーフの建設が考えられたのは、昭和36年頃です。当時日本山岳会関西支部長であった津田周二氏を中心として、山岳連盟、RCC の方々が世話人会を結成され、約400名の方々から67万円の寄付金を得て建設されたものです。レリーフの製作は日本山岳会員で彫刻家の佐藤久一朗氏が担当され、昭和38年5月12日に藤木先生も出席され、約200人の岳人が集い盛大に除幕式が行われました。関西の山仲間が年1回レリーフの前に集まり、旧交を暖め藤木先生をはじめ岳友を偲び、登山の発展と安全を祈る場として、今後も継続されることを祈願しています。

藤木祭記念ハイキング

集合 平成27年9月27日(日)午前8時30分
場所 阪急岡本駅北側・桜守公園
コース 桜守公園～保久良神社～金鳥山～魚屋道～
会下山遺跡～山芦屋～大谷茶屋
担当 兵庫県山岳連盟 大阪府山岳連盟

藤木九三氏略歴

1887年(明治20年)9月30日生まれ

1970年(昭和45年)12月11日死去

福知山市で薬種商を営む、藤木喜兵衛氏の6男として生まれ、京都府立三中(現福知山高校)より早大に進学、大正4年朝日新聞社に入社、大正14年滝谷の初登攀に成功。大正15年ヨーロッパアルプスや、イギリスの岩場を登る。「屋上登攀者」をはじめ多くの著書がある。

第27回藤木祭(次回)は

平成28年10月2日(日)実施

雪山賛歌

作詞 西堀栄三郎 作曲 P・モントローズ

- 雪よ岩よわれらが宿り
俺たち町には住めないからに
俺たち町には住めないからに
- シールはずしてパイプのけむり
輝く尾根に春風そよぐ
- けむい小屋でもこがねのごてん
早く行こうよ谷間の小屋へ
- テントの中でも月見はできる
雨が降ったらぬれればいいさ
- 吹雪の日にはほんとうにつらい
ピッケル握るに手がこごえるよ